



図書館通信

最上校図書委員会 No.12 9月25日

校内読書感想文コンクール結果発表

一次審査（学年代表）

学年・番	名 前	書 名	感想文の題名
1年 2番	伊藤 哲正	えんとつ町のプペル	これからの自分へ。
1年 7番	佐藤 優大	シナモンロールの「エチカ」	新しい考え方
1年10番	寺崎順之介	走れ！T校バスケット部2	卓球部の経験
1年13番	幕田 美咲	モモ	「モモ」から学んだこと
2年 1番	井上 響加	当たり前の反対はありがたい	「当たり前」だと思わないことの大切さ
2年 3番	小埜 恋歌	17歳のピオトープ	17歳のピオトープを読んで
2年 6番	片山 萌佳	ようこそ実力至上主義の教室へ①	ようこそ実力至上主義の教室へを読んで
2年10番	柴崎 凜香	キャパとゲルタ ふたりの戦争カメラマン	戦争と平和
3年 1番	伊藤 信	羊と鋼の森	ピアノ
3年 2番	遠藤 秋穂	あの花が咲く丘で、 君とまた出会えたら。	平和のために
3年 4番	佐藤 美織	たのしく学ぶ社会福祉	社会福祉とは

二次審査の結果

最優秀賞：2年3番 小埜恋歌

題名「17歳のピオトープ」を読んで
『17歳のピオトープ』 清水晴木著

優秀賞：1年13番 幕田美咲

題名「モモ」から学んだこと
『モモ』 ミヒヤエル・エンデ著

・2年1番 井上響加

題名「当たり前」だと思わないことの大切さ
『当たり前の反対はありがたい』 厚地美奈著

佳 作：2年6番 片山萌佳 題名「ようこそ実力至上主義の教室へ」を読んで

：2年10番 柴崎凜香 題名「戦争と平和」

：3年2番 遠藤秋穂 題名「平和のために」

※2年小埜恋歌の作品を「第70回青少年読書感想文コンクール」に応募します。

※最優秀作品は「稲穂」に掲載します。

※表彰は12月24日（火）2学期終業式にて行います。



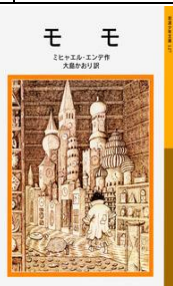
新庄北高最上校図書館 10月開放カレンダー

10月図書館企画 第2回朝読書特集・

第78回読書週間（10月27日～11月9日）

日	月	火	水	木	金	土
		① 中間試験	②	3	4	5
6	7	⑧	⑨	10	11	12
13	14 スポーツの日	⑮	⑯	17	18 文化祭準備	19 文化祭
20	21 代休	⑳	㉑	24	25	26
27	28	㉓	㉔	31		

※○数字の日が開放日です。



読書の秋にオススメの最新刊！



『猫と罰』 宇津木健太郎著

猫に九生ありという。かつて漱石と暮らした黒猫は、何度も生と死を繰り返し、ついに最後の命を授かった。過去世の悲惨な記憶から、孤独に生きる道を選んだ黒猫だったが、ある日、自称“魔女”が営む猫まみれの古書店北斗堂へ迷い込む。文豪の猫と創作の業が絡まり合う。

『グリフィスの傷』 千早茜著

からだは傷みを忘れない。たとえ肌がなめらかさを取り戻そうとも。傷をめぐる10の物語を通して癒えるとは何かを問いかける、切々とした疼きとふくよかな余韻に満ちた短編小説集。

『わたしの知る花』 町田そのこ著

虫も殺せぬ優男、結婚詐欺師……？ 77歳で孤独死した老人の、誰も知らない波瀾に満ちた意外な人生とは？

『狐花 葉不見冥府路行』 京極夏彦著

歌舞伎の舞台化のために書き下ろされた、長編ミステリ。

『臨床のスピカ』 前川ほまれ著

寄り添い、寄り添われ、生きていく。犬と人との関係を通じ、人と人との心地よい距離と自分自身のありようを見つめ直していく。命の現場を舞台に、現役看護師の著者が描く希望の物語。

『幸せへのセンサー』 吉本ばなな著

幸せってそもそも何でしょう？ 59年間生きてきてわかった、幸せってというのは、つまりこういうことじゃないか。こういう考え方をしたら自分にとっての幸せがどういうものかわかってくるはず。ということをお話ししてみます。幸せはオーダーメイド。

いつでも、自分に合わせた形で取り出せる。

『家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった』

岸田奈美著

「楽しい」や「悲しい」など一言では説明ができない情報過多な日々の出来事。笑えて泣けて、考えさせられて、心がじんわりあたたくなる自伝的エッセイです。



2024 第2回 映画鑑賞会 in 最上校



「法廷遊戯」 ミステリー

図書委員会企画 第2回映画鑑賞会を9月18日(水) 3時50分からPC室で開催しました。1年12人・2年8人・3年1人の合計21人の参加でした。

地域活動部活動班、スポーツ班、バド部の皆さん、参加ありがとうございました。

- ・映画の内容はかなり難しく、理解に時間がかかると思うが、深い話で面白かった。
- ・とても難しい内容だったが、深く考えさせられ、結末に近づくごとに、色々な回想がパズルのように合っていくのが面白かった。
- ・感情が入り組んでいて、謎がとても多くて、色々と考えさせられ、難しかった。
- ・本を読んだ時のイメージのままに崩れているところがなく、凄く楽しめた。
- ・永瀬廉が推して、ずっと見たかったので、観ることが出来て良かった。

- ・法廷シーンのリアリティや登場人物の心理模写や物語が進むにつれて、予測できない展開があって面白かった。
- ・次々と謎なことが起き、最初から最後までドキドキが止まらなかったし、ミステリー映画は好きなので、とても面白かった。

※お詫び：予定しておりました、『禁じられた遊び』がDVD化になっていなかったため、本作の上映になりました。

